

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

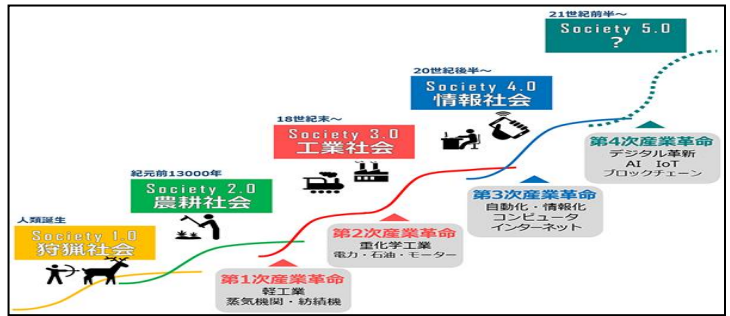
～「Society5.0」とは・・・～

Society5.0・・・とは、日本が提唱する未来社会のコンセプト。「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、新たな未来社会」とネットで検索すると出てきます。

良くわかんないですね。

1年生は「公共」の授業で出てきましたね。

このSociety5.0について、東京大学名誉教授の月尾嘉男さんとJFEホールディングス名誉顧問の数土文夫さんが対談されています。



日本が取り組むべきことは、情報社会の次を設定して人材を育成することだと思っています。一般的に言えば、狩猟社会・農耕社会・工業社会・情報社会へと発展してきました。しかし、「Chat GPT」の出現によって、従来の情報社会は変わらなければならない時期に来ていると思います。

何を次に設定するのかについては、様々な意見があると思いますが、私は情報社会から・・・
“情緒社会”へ移行すべきだと考えています。

**情報と情緒の違いは何かというと、“情報”は持っている人が少ないほどその価値がある。
 “情緒”はその逆で、知っている人が多いほど価値がある。**

ちなみに、情報には“インフォメーション”と“インテリジェンス”の二つの意味があります。
“インフォメーション”とは発信する側がお金を払ってまでも知ってもらいたい情報で、“インテリジェンス”とは受け取る側がお金を払って、あるいは危険を冒してでも手に入れたいもののことです。これを混同してしまっている人が多いように思います。

さて・・・女性が安心して一人旅ができる国ランキングというものがあるって、日本は常に5位以内に入っています。

日本には長きにわたって育んできた文化的な宝がたくさんあるけれども、その価値を日本人自身が意識していないという点で非常に損をしている。

“情緒社会”という言葉が受け入れられるか否かは別にして、脚下照顧という言葉の通り、自分たちが当たり前だと思っているものの価値にもう一度気づき、世界に発信することが重要です。

「致知」9月号 時代を拓く より

東洲斎写楽という浮世絵師を世界に広めたのはクリウス・クルトというドイツ人牧師です。伊藤若冲を世界に紹介したのはジョー・ブライスというアメリカの美術蒐集家です。大森貝塚を発見したエドワード・モースは、広島島の旅館に泊まった時、部屋に財布も時計も置いたまま出かけて戻ったらそのまま置いてあったことに感動したそうです。イギリスの女性紀行家イザベラ・バードは『日本奥地紀行』の中で、渡し船に乗って一度も法外な料金を請求されなかったこと、宿泊先の農家の女性がずっと団扇であおいでくれたことに感動した話などが書かれています。

世界に誇るべき日本の文化、その真意を理解し、受け継ぐとともに、世界に発信できるようになりたいものです。

さて・・・あなたが・・・スマホやインターネットで得ている情報は・・・“インフォメーション”ですか？それとも・・・“インテリジェンス”ですか？ 混同してしまっていないですか？